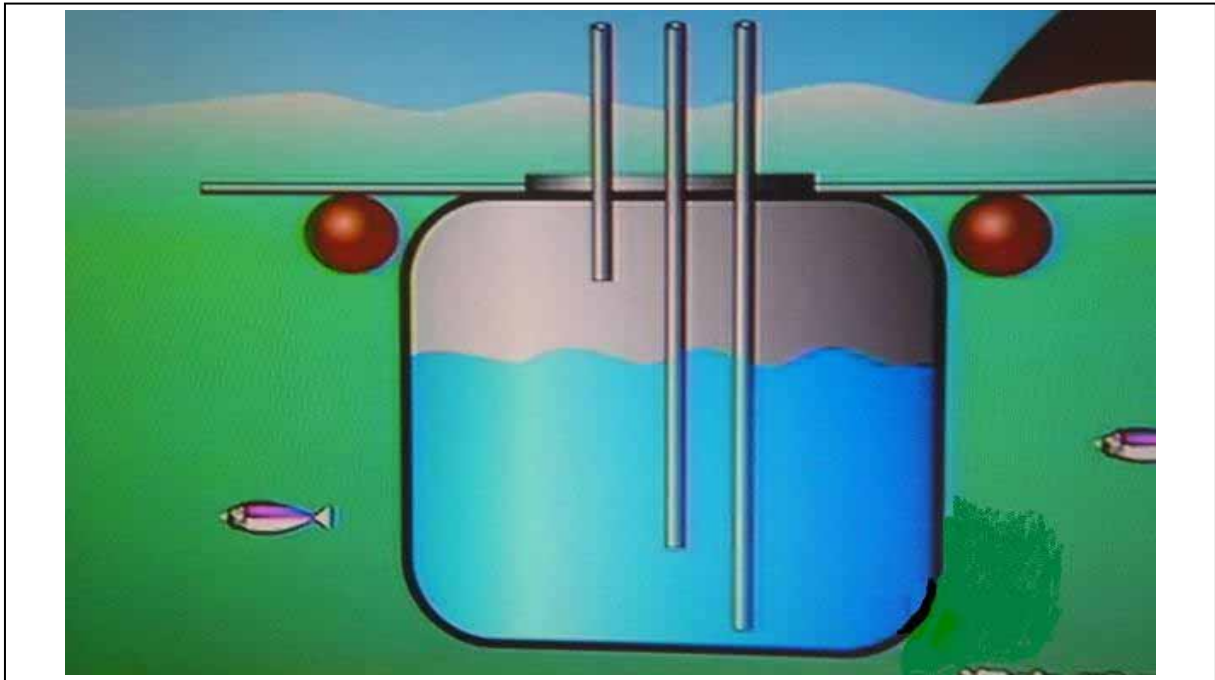


水中ダム（水中貯留タンク）

水中貯留タンクは、発想の転換を図り山間部のダムを水中で実現しようとする大胆な取り組みです。イメージは、ゴム等の素材を使用した風船状の容器である。タンクへの注入時は膨張し排水時は収縮する単純な構造です。暴風時は影響を受けない水深まで潜行させたり、そのまま離島に宅配したり緊急時の備蓄用等として、設置やメンテコストを低減し貴重な水を無駄なく集め活用する狙いです。



水中ダム（水中貯留タンク）の概要及び活用方法について

1 概要

我が国は周囲を海にかこまれており、水辺空間の活用が容易であること、及び、地震多発国である等を踏まえ、下記の様な特徴や自然条件の利点を背景として開発に取り組んでいます。

- (1) 従来の山間部に建設する水源ダムに代替する機能を有する。
- (2) 地上施設に比べ、地震等により決壊した場合の二次被害が軽減される。
- (3) 地上施設に比べ、工事に伴う自然破壊や設置後の眺望など、環境面への付加が小さい。
- (4) 水中貯留のため、気候変動や日射変動の影響を受けにくく、年間を通じて水温が平滑化される。

2 想定される活用方法

次のような活用を想定しております。

- (1) 貯留ダムの適地がないため、飲料水等の自己調達が不可能となっている岬や離島地域において、斜面水等を集水して水源ダムに代替する「水中貯留タンク」を利用することにより水源開発を可能とする。
- (2) 離島や臨海部における水道の配水池（用地の確保が不要）
- (3) 工業用水の受水槽（水温管理が容易）
- (4) 防災用水の貯留槽（人口が集中する臨海部での設置が容易）
- (5) オイルタンカーの往路に中近東への水輸送

興味のおありの方は、ご意見及び考えられる活用方法をお寄せ下さい。お待ちしております。